

弥栄町野坂地区の現状とこれから

市原愛佳 張ゲッキ 初道慎也 松若麻衣 森山大地

野坂地区とは

野坂地区は浜田市弥栄町に属し、豊かな自然と昔ながらの農村の暮らしが残る**中山間地域**である。浜田市内でも有数の豪雪地帯であり、市街との気温の差は**3～4度**低く自然環境が大変厳しい。しかしこの厳しい自然環境が豊かな農作物を育て、温度変化の激しい野坂地区の米は高い評価を受けている。冷たい山の水と豊かな土壌がそろった中山間地域の利点を十分に活かした農業が特色である。また美しい景観でも知られ、十国トンネルを抜けた先に広がる田園風景は地区住民の誇りとなっている。住民は横の繋がりを大切に、地区の祭や**景観維持活動**などの行事に大変積極的である。後継者問題、耕作放棄地など農村が抱える諸問題は野坂地区も例外ではないが、地区住民の連帯意識が高いため、活力のある地域を形成している。



野坂地区の年齢別人口層

	男	女	合計
0～9歳	2	3	5
10～19歳	1	1	2
20～29歳	3	2	5
30～39歳	2	2	4
40～49歳	4	3	7
50～59歳	6	5	11
60～69歳	13	8	21
70～79歳	8	7	15
80～89歳	3	15	18
90～99歳	0	5	5
	42	51	93

(2010年国勢調査より作成)

景観維持

約20年前に十国トンネルができてから野坂地区は弥栄町の**玄関口**になった。野坂地区の方たちの力により野坂地区の景観はとても**美しく整備**され、弥栄町を訪れる人の目を楽しませている。

現在も野坂地区の方々は景観の維持をするために様々な努力をされている。年5回桜の木を住民全員で**草刈り**をされている。草刈りをしたことで空き缶などのゴミを捨てる人が減少するという効果もあった。

暮らし

野坂地区では年に4回の**お祭り**があり、10月には**新嘗祭**という、その年の農作物を神様に報告する行事がある。また、祭りの料理には**焼き米**、**うずめ飯**などで、1週間前にはしめ縄をつくっている。

野坂地区には約20年行われている**無人市**がある。無人市は個々の世帯で余った農作物や家庭で作られた、おはぎ、漬物、干し柿を持ち寄り販売してある。

交通面はほとんど車を利用して、バスの運行は1日に**5本**でている程度である。

農業

現在、野坂地区ではほとんどの世帯が農業をしている。しかし、野菜は家庭内で消費する分のみ栽培する世帯が多い。収穫できたお米を市場に出荷して「**弥栄米**」というブランドで市場にでていて浜田市内で美味しいと評判。

「**農業事業組合きずなの里**」という組合があり、地区から**耕作放棄地**を出さないように共同で耕作地を維持管理している。また獣被害は電気柵を使用しているので少なく、稲作も豊作で秋には**黄金の稲**で地区全体染まっている。

食

どの世帯でも、昔は豆腐、味噌、こんにやくなどを作っていたが今では作られていない家庭がほとんどであり、今でも作っているものは漬物ぐらいである。野坂地区には「**エプロンの会**」という女性5～6人のグループがあり、野坂地区の中で欲しいという人の全員分の味噌を作っている。他にもそれぞれの季節で採れたものを持ち寄っていろいろなものを作っている。

これから

野坂地区には品質の高い農作物があるため、農作物を通して活性化策を講じるべきである。例えば、「**ミクニマルシェ**」という取り組みがある。これは「はまだ食の大使」で、フランス料理の三國清三シェフが推奨する浜田特産の食品、食材に「ミクニマルシェ」というブランドを付け、全国に紹介する活動である。このような活動に参加することで、野坂地区の知名度上昇と農作物の販路拡大、それに伴う地域の活性化が期待でき、農業収入の向上が見込まれる。地域資源を活かした手段が地区の諸問題の解決につながる。